

はまなす句会（八月二十四日）（百二十五回）

立秋や余生さほどに暇はなく

圭二

秋立つと言えど風にも気配なし

菊枝

季節感うすれゆく中秋立てり

由美子

立秋や降る雨何かもの寂し

久子

匂い来し亡母の煮物や今朝の秋

玲子

秋立ちてすっきり見ゆる空と雲

則子

